



おわりに

昨年の第1回HZ研究会では腎機能と抗ヘルペスウイルス薬の安全な使用を取り上げ、第2回では頭頸部の帯状疱疹に伴う合併症を取り上げました。皮膚科のみならず、耳鼻咽喉科や眼科等との境界領域について学ぶ機会を得たことは本当に有意義であり、それと同時に今回も診断と治療の難しさをまた深く考えさせられました。

我々皮膚科医は、皮疹だけをみて治療を考えがちです。しかし、帯状疱疹は奥深い疾患であり、治療のアウトカムは皮膚病変だけではないがゆえに、どこをターゲットにすべきか、もう一度考え直す必要があると改めて感じました。

今回の議論をしっかりと消化し、自分たちでもう一度勉強しなおして、今後の皮膚科学会等の場で、多くの皮膚科医に帯状疱疹の適切な治療法はどうあるべきかという解決の糸口を提案していきたいと考えています。

岩月 啓氏